

ミュージズ街の殺人

MURDER IN THE MEWS

1989年作品

製作:ブライアン・イーストマン 監督:エドワード・ベネット 脚色:クライブ・エクストン

日本語版プロデューサー:里口 千 日本語版演出:山田 悦司 日本語版翻訳:宇津木 道子

出演:

エルキュール・ポワロ … デビッド・スーシェ/熊倉 一雄

ヘイスティングス大尉 … ヒュー・フレイザー/富山 敬、安原 義人

ジャップ主任警部 … フィリップ・ジャクソン/坂口 芳貞

ミス・レモン … ポーリン・モラン/翠 準子

※ ※ ※

ジェーン・プレnderリース … ジュリエット・モール/鈴木 弘子

レイヴァートン・ウェスト下院議員 … デヴィッド・イエランド/小川 真司

ユースタス少佐 … ジェームズ・フォークナー/妻人

ピアス夫人 … ガブリエル・ブラント/京田 尚子

ジェームソン警部 … ジョン・コーディング/仲木 隆司

ブレット医師 … パリー・クックソン/秋本 羊介

フレディ … ニコラス・デルブ/浪川 大輔



©ITV Studios Limited 1989

「今夜は殺人にもってこいの夜」ヘイスティングスの何気ない言葉通り、花火が打ち上がるガイ・フォークスの夜、喧騒に包まれたミュージズ街で若い女性ミス・アレンが亡くなった。自殺のようでもあるが不審な点もあり、翌朝、ジャップ警部はポワロを同行して、彼女の家へ向かった。ミス・アレンは不自然な格好で左手に銃を持ち、左頭部を撃って亡くなっていた。自殺か他殺か？死の裏に隠された複雑な動機をポワロが解き明かす。

◆ガイ・フォークスの夜、^{ミュージズ}厩舎街で

タイトルにあるミュージズ街のmewは元来、鷹小屋を意味していましたが、後に厩舎を指すようになり、やがてそれらが住居に改築され、そこから表通りまで通じる石畳の路地が、ミュージズ街と呼ばれるようになったということです。

銃声もかき消されるほど盛んに花火の打ち上がる夜に関して劇中でもジャップやポワロが語っている「ガイ・フォークスの事件」とは、1605年、迫害されていたカトリック教徒の過激派が国会議事堂の爆破を計画、未遂に終わった「火薬陰謀事件」と呼ばれるもの。実行犯ガイ・フォークスが捕らえられた11月5日にちなんだ風習により、子供たちはガイ・フォークスをかたどった人形を引きまわし、最後には焼き捨て、花火をしたそうです。

◆若きイエランド

発見された死体の婚約者、上流階級の俗物レイヴァートン・ウェスト下院議員に扮しているのは、1970年代から多くのTVドラマで活躍し、劇場映画でも『炎のランナー』(1981)のような名作で存在感を見せている実力派俳優デビッド・イエランド。

シリーズ初期の本話にゲスト出演した彼は、15年以上を経て、シリーズ後期の『満潮に乗って』からポワロの従僕ジョージ役として、以降も間欠的に出演。最終話でも短いシーンながら味わい深い風情で、ヘイスティングス役のヒュー・フレイザーと再共演しています。

◆苦勞人ジャップ

花火が嫌いでガイ・フォークスの夜に外出しないジャップの夫人。実は、これも本シリーズ定番の設定で、『刑事コロンボ』よろしく、ジャップ夫人も盛んに話題に上るものの、基本的に画面には姿を見せない人物なのです。

そのジャップ主任警部ですが、前話ではポワロの手腕に敬意を払いつつも出し抜かれるのが面白くないライバル意識が前面に出ていましたが、本話では共に捜査にあたる協力的な姿が印象的です。この対照はシリーズの趨勢でもあり、序盤では概して、ポワロの稀有な探偵能力に対して競い合う彼ですが、回を追うにつれ、ほぼ全面的に信頼を寄せる二人三脚的な立場へと推移するのが、シリーズにおける彼の変容です。その過程で、ポワロに窮地を救われる物語もあり、見所のひとつと言えるでしょう。

さて、注意深い方はお気づきかもしれませんが、本話で映る彼の仕事部屋の様子は、前話と全く同じではありません。実は、シリーズにおける彼の部屋のセットは、回によってよく変わります。唯一共通するのが、前話と本話ともに見られる扇風機。これこそ、彼の部屋の雰囲気醸し出す要だそうで、確かに叩き上げ風な彼のムードに似合うアイテムです。